

守る伝統, 根づかせる技術・価値

— 歴史的建物の壁・天井への新たな補修技法の開発 —

後藤 治 総合研究所・教授 田村 雅紀 建築学部・建築学科 教授

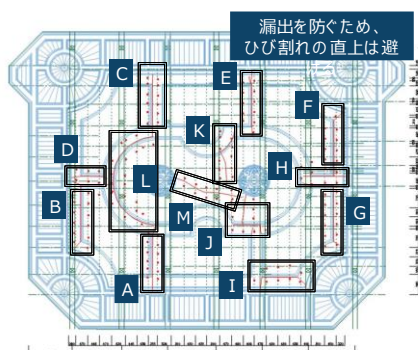
キーワード: 文化財建造物, 漆喰天井, 土蔵壁, 浸透性樹脂, 既存建物補修

概要

岩手銀行赤レンガ館（旧本店本館）は、辰野金吾氏の設計により、明治44年に竣工した。東京駅丸の内駅舎の前年に完成しており、外観の意匠にも類似する箇所がある。東日本大震災後の2012年に、銀行としての役目を終えていた。

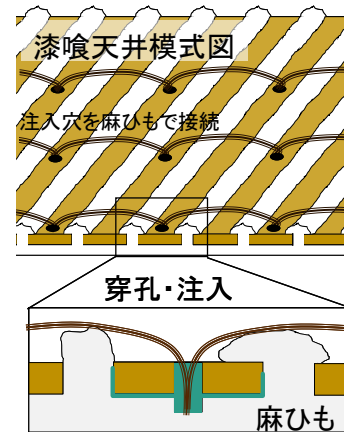
築100年超のこのような建物内部には、高さのある天井に1㎡あたり30～40kgの漆喰天井が吊られていることが多い。

赤レンガ館は、左官天井の複数部分にクラックが発生し、早急な対策が必要であった。本研究では、これらの経年劣化や災害を越え、建築の意匠・社会性・技術等の遺産的価値を大きく損なわない形で維持・継承するために、左官仕上げの天井を浸透性特殊アクリル樹脂を用いて補修し、2016年に保存再生を完了した。



再生技術詳細

漆喰仕上げの天井や壁は、幅約4cmの細い木板を等間隔に並べ、その隙間に漆喰を塗りこむ木摺り漆喰工法で施工される。漆喰の支持力は隙間から飛び出した「引掛り」が中心となり、経年劣化等でこの支持力が低下すると剥落の可能性が高まるため、木摺りと漆喰の界面および木摺り面への補修孔に対し、麻ひもを介して特殊アクリル浸透性樹脂を注入して剥落防止処理を付加している。施工は全て屋根裏から安全性を確保して行え、意匠に影響なく復原改修ができるため、文化財保存再生の観点で期待できる。



関連情報

●関連論文

岡, 田村, 後藤治, 津村, 文化財建造物の木摺り漆喰天井における浸透性樹脂を用いた補修工法の実施工検討, 日本建築学会技術報告集, pp.789-796, Vol.23, NO.55, 2017年10月

岡, 田村, 後藤, 漆喰仕上げ天井における補修工法の開発, 日本建築学会技術報告集, Vol.23, NO.54, pp.403-408, 2017年6月

岡, 田村, 後藤, 歴史的建造物における既存左官天井の非破壊による健全度評価の基礎的検討, 日本建築学会構造系論文集, 第82巻, 第736号, pp791-800, 2017年6月

岡, 田村, 後藤, 材料物性と下地仕様の観点からみた木摺り漆喰天井部材における基本性能と健全度評価に関する実験的検討, 日本建築学会構造系論文集, 第82巻, 第731号, 2017年1月

●関連 URL = <http://www.ns.kogakuin.ac.jp/~dt40009/tamura/>

工学院大学 総合研究所 研究推進課

東京都八王子市中野町2665-1 〒192-0015

TEL:042-628-4940 FAX:042-628-4853

E-Mail: lisaision_soumu@sc.kogakuin.ac.jp URL: <http://www.kogakuin.ac.jp>